

講師プロフィール

第1・第2・第4回



中村 英代さん

社会学専攻（臨床社会学・ジェンダー論）。現代社会の「生きづらさ」をテーマに、この数年は摂食障害や薬物依存など依存症を中心に研究・講義・講演を行う。14歳から19歳まで摂食障害を経験している当事者でもあり、研究者・当事者の2つの立場から、社会が生み出す「生きづらさ」の解消を模索する。

2002年3月 東京大学大学院人文社会系研究科 修士課程修了（社会学修士）
 2007年3月 お茶の水女子大学人間文化研究科 博士後期課程 単位取得満期退学
 2014年4月～現在 日本大学文理学部社会学科・准教授（博士：社会科学）

【著作】『摂食障害の語り—〈回復〉の臨床社会学』新曜社（2011）
 『社会学ドリルー—この理不尽な世界の片隅で』新曜社（2016）
 【論文】「誰も責めないスタンスに立ちつつ、問題の所在を探りあてる—摂食障害・薬物依存へのナラティブ・アプローチ」『N:ナラティブとケア 第6号』（2015）ほか
 【共著】『ダルクの日々—薬物依存者たちの生活と人生（ライフ）』ダルク研究会（編）知玄社（2013）
 オフィシャル・ウェブサイト <http://www.hideyonakamura.com>



シンボルマークの意味
 嵐のなか(社会問題)を
 キリッと進む女の子(ジェンダー)に
 リボン(社会学の知)で祝福を!



第3回



高山 直子さん

女性問題専門カウンセラー。セクハラなど性的被害や女性の労働問題を中心に活動しており、カウンセリングのほか「自己尊重」「コミュニケーション」「メンタルヘルスケア」「ハラスメント」「エンパワメントにつなげる支援」「傾聴」「ファシリテーション」「相談員トレーニング」などをテーマにした講演、ワークショップ多数。

1996年 アメリカ・ミシガン州 Eastern Michigan University で女性学修士取得
 2006年 アメリカ・ミシガン州 Wayne State University でカウンセリング修士取得
 2006年11月～現在 NPO 法人サポートハウスじょむ カウンセラー
 2009年 4月～現在 大学のハラスメント専門相談員
 2011年 4月～現在 東京都産業労働局労働情報相談センター 心の健康相談室相談員

【著作】『働く人のための「読む」カウンセリング ピープル・スキルを磨く』研究社（2010）



※1 「ナラティブと当事者研究」とは：「ナラティブ」とは「語り」「物語」という意味。「当事者研究」とはそれぞれの「語り」を聞き合い受け止め合い、新しい物語を共同で作っていくという「ナラティブ・アプローチ」を用い、それをセオリー（理論）にしていく研究方法。

※2 「キレル」とは「激昂する」、「ディスる」とは「見下す」「侮辱する」という意味。